

平成26年度 全国栄養クリニック連絡会

[目 的]

現在、全国管理栄養士養成課程が設置されている大学中、6大学で栄養クリニックが設置されている。平成23年度から5施設による連絡会が日本栄養改善学会学術総会を利用して開催され、本年度より東海学園大学を加えた6大学で、第4回を迎える。栄養クリニックの設置を予定している大学も参加し、施設間の相互関係を深め、施設や研究活動の更なる発展を目的として開催している。

[実施内容]

開催日時：平成26年8月20日（水） 18：30～20：30

場 所：第60回日本栄養改善学会学術総会 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター
開会の挨拶：武庫川女子大学 食物栄養学科 上田由美子准教授

各大学の発表：18：35～19：15

自由討論：19：15～20：30

[各施設からの事前登録参加者リスト]

女子栄養大学 栄養クリニック（4名）

栄養クリニック所長／臨床栄養医学研究室教授／医師 田中 明、栄養クリニック主任／
栄養クリニック教授／管理栄養士 蒲池桂子、管理栄養士 鈴木智草、管理栄養士 磯崎
真理子

武庫川女子大学 栄養クリニック（6名）

栄養クリニック責任者／食物栄養学科准教授／医師 上田由美子、栄養クリニック管理栄養士／
共通教育部准教授 鈴木秋子、栄養クリニック管理栄養士／京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学／武庫川女子大学非常勤講師 尾崎悦子、栄養クリニック
管理栄養士／兵庫大学健康科学部栄養マネジメント学科 増村美佐子、栄養クリニック管理栄養士／教務助手 梅崎絹恵、栄養クリニック管理栄養士／教務助手 前田春菜

中村学園大学 栄養クリニック（2名）

栄養クリニック栄養管理栄養士・事務 上野宏美、栄養クリニック管理栄養士／栄養科学部助手 小野美咲

天使大学 天使健康栄養クリニック（6名）

栄養クリニック代表責任者／看護栄養学研究科研究科長／看護栄養学研究科栄養管理学専攻教授／医師 大久保岩男、天使大学学長／看護栄養学研究科栄養管理学専攻教授／医師 武蔵 学、看護栄養学研究科栄養管理学専攻教授／管理栄養士 山口敦子、看護栄養学研究科栄養管理学専攻教授／管理栄養士 久保ちづる、看護栄養学研究科栄養管理学専攻准

教授／管理栄養士 鈴木純子、看護栄養学研究科栄養管理学専攻准教授／管理栄養士 清水真理

神戸女子大学 健康福祉学部（１名）

健康福祉学部教授／医師 鈴木一永

東海学園大学 健康栄養プラザ（２名）

健康プラザ所長／健康栄養学部管理栄養学科教授／山本由喜子、健康プラザスタッフ／健康栄養学部健康栄養学科教授・学部長／管理栄養士 西堀すき江

京都女子大学 栄養クリニック（５名）

栄養クリニック長／食物栄養学科教授／医師 宮脇尚志、副栄養クリニック長／京都女子大学名誉教授／管理栄養士 木戸詔子、栄養クリニック指導教員／食物栄養学科教授／管理栄養士 宮崎由子、栄養クリニック研究員／食物栄養学科教授／医師 田中 清、栄養クリニックスタッフ／管理栄養士 松浦稚紗

駒沢女子大学（４名）

大学人間健康学部健康栄養学科教授／管理栄養士 井上浩一 他３名

[各施設からの発表および自由討論]

発表テーマ：栄養クリニック連絡会を拠点として各大学の栄養クリニックが、現代社会で、
①どのような役割を果たすべきか ②どのように各大学間で連携し繋がっていくべきか。

中村学園大学：施設、スタッフ紹介、診療業務・食育活動・地域住民対象の料理教室・運動教室、研究活動として、福岡グラフ化体重日記研究会・臨床介入試験、教育活動（１回生の早期臨床体験実習）の報告があった。当連絡会の役割は、治療や活動の効果を全国に発信し、管理栄養士による食生活指導の重要性、管理栄養士の地位向上を訴えていくこと。

女子栄養大学：一般の個人栄養相談、地域コミュニティの集団栄養指導、マスコミ対応が現在の主な業務であるが、これからは地域の食育、管理栄養士の研修、地域の管理栄養士業務、保健指導などに活動の可能性があると思う。クリニック運営に係る資金繰りについての説明。私学で永続的に栄養クリニック運営を行うことの難しさが説明された後、当連絡会を公的な運営組織形態（例．学会など）にすることが可能か討議することを提案。

京都女子大学：設立・開設目的（管理栄養士の教育、地域貢献、社会貢献になること）、構成スタッフの紹介、新施設での年間事業報告。特定保健指導の導入、臨床研究の拡大、管理栄養士の研修施設とすることなど検討中であることを報告。当連絡会を広く普及し、多くの方に周知するために、日本栄養改善学会の本会場の中でシンポジウムやランチョンセミナーなどの形で実施することができないかを提案。さらに、各大学間の横の繋がりをより密にするために、年に数回、連絡会のような場を持ち、密に情報を共有していくことを提案。

天使大学：2006年開設から大学院生の実践教育・研究施設として設立。文科省などが、大学の活性化のために打ち出している構想を例に掲げ、国からの助成の公募に対し、応募することが大切であると述べた。地域貢献はこれからの課題だと考えている。この連絡会では、そ

それぞれの栄養クリニックの現状について報告することで、自らのクリニックの発展のために情報を得る場としたい。

武庫川女子大学：事業内容などの発表は割愛し、今後それぞれの栄養クリニックが発展していくためにどうすべきか具体的な討論をすることを提案。

東海学園大学：今年の4月に“健康栄養プラザ”という名称で、栄養クリニックを立ち上げたことが報告された。

以上のように、各施設が報告・提案をし、それぞれの提案に対して討論が行われた。現在、全国に6つの栄養クリニックがあるが、それぞれ特色がある。患者の行動変容を起こすような栄養指導の方法を模索し、既存のものを用いながら新しい指導方法を考え発展させようとしているクリニックもあれば、患者が行動変容を起こすような指導の出来る人材を育てようとするクリニックもある。どちらの発想も大事で、どちらもあっていい。それぞれの意見をこの連絡会で共有することに意味がある、という意見が出た。さらに、大学の中で栄養クリニックをどのように位置づけるのか、学生教育の場合なのか、卒後教育・生涯教育のような、スペシャリストの育成なのか、地域貢献なのか、いずれも大切な取り組みであるので、これらの各大学で実際の取り組みを共有し、お互いに理解し各施設に合った形で実施すれば、成長できるのではないか、という意見も出た。

また、栄養クリニックをもつ施設間の情報共有だけでなく、栄養クリニックを持たない施設にも、栄養クリニックの現状をもっと知ってもらふ必要がある、という意見が出た。これに関しては、栄養クリニックを学会のような公的な組織にし、施設間の情報共有だけでなく、栄養クリニックとして、既存の学会などで研究発表を行ったり、栄養クリニック独自の定例の研究発表の場を作ろうではないか、という意見が出た。そうすることで全国的な評価を得ることができ、大学の運営者に対してもアピールできる。しかし、現在、栄養クリニックの連絡会は、栄養改善学会の中の自由集会という小さな集会の中で行っており、他の学校関係者には実働が見えにくいのが現実である。まずは、栄養改善学会のシンポジウムやパネルディスカッションでもいいので、規模を大きくしてその場で、現在6校ある栄養クリニックの取り組みを紹介し、そしてNPO法人や一般社団法人などとして組織を立ち上げようということを掲げるほうがいいのではないかと意見が出た。ひとまず、次年度福岡で開催される栄養改善学会のシンポジウムに、栄養クリニック連絡会を組み込めないか検討する、ということで話はまとまった。これに関しては、女子栄養大学と次年度世話役の中村学園大学が協力して話を進めることになった。次年度の連絡会は、平成27年9月24日～26日に開催の日本栄養改善学会学術総会・福岡国際会議場・福岡サンパレスホテルで開催すること、世話役は第3、4回と担当した武庫川女子大学から、中村学園大学に引き継ぐことが決まった。

(松浦稚紗)